

## 様式第五十の二（第48条第6項関係）

### 認定事業適応計画の（中間）実施状況の概要の公表 （令和5年度分）

#### 1. 認定の日付

令和4年5月31日

#### 2. 認定事業適応事業者の名称

オムロン株式会社およびオムロンヘルスケア株式会社

#### 3. 認定事業適応計画の実施期間

開始時期：令和4年（2022年）5月

終了時期：令和8年（2026年）12月

#### 4. 認定事業適応計画の実施状況

##### （1）事業適応計画に係る事業の目標の達成状況

本計画では、これまでのように既に構築された産業構造のもとで自社の立ち位置を定め価値向上、製品性能・品質の向上を追求し続ける視点（モノ視点）でのビジネスモデルを変革し、改めて社会の課題構造から見つめ直し顧客価値の最大化と社会目標の達成を大目的とする「本質価値を捉え直す視点」（コト視点）での事業展開により、顧客価値を最大化するオートメーションやヘルスケアサービスの社会実装を進めていくこととしている。

この計画のうち、令和4年度に実行した投資により、オムロン株式会社は **Zuora**（期間契約型ビジネス）と **Cornerstone**（教育サービス）のサービスを展開している。また、オムロンヘルスケア株式会社は顧客の健康課題に対するサービス展開を継続している。

##### （2）生産性を相当程度向上させること又はその生産し、若しくは販売する商品若しくは提供する役務に係る新たな需要を相当程度開拓することを示す目標の達成状況

オムロン株式会社の制御機器事業では、令和5年度において主な顧客層である製造業の投資抑制を背景に、サービス事業におけるサブスクリプションなどの販売形態を理解いただくための時間や、顧客の意思決定のリードタイムが想定以上に長かったことなどの要因により、売上高は当初見込みを下回る結果となった。

次に、オムロンヘルスケア株式会社のヘルスケア事業について、予防から治療までの顧客の目的にあわせたデバイス、アプリ及びサービスの需要を開拓していたが、一部のサービス事業の終息などが要因で、令和5年度におけるコネクテッドデバイス及び関連サービスの売上高は当初見込みを下回った。

(3) 財務内容の健全性の向上を示す目標の達成状況

財務内容の健全性の向上指標については、令和5年度は、オムロン株式会社の有利子負債／CFは38.6倍、経常収支比率が95.8%、オムロンヘルスケア株式会社の有利子負債はゼロ、経常収支比率が115.5%となった。

(4) 実施した事業適応計画の内容

オムロン株式会社の制御機器事業について、令和5年度では主な顧客層である製造業の投資抑制を背景に、計画値には至らなかったが、今後の投資需要の回復時期を確実に捉え、顧客に対して新サービスへの理解の浸透を着実に進めながら、産業オートメーションに係る新サービスの売上拡大を図っていく。

次に、オムロンヘルスケア株式会社のヘルスケア事業について、令和5年度においても予防から治療までの顧客の目的にあわせたデバイス、アプリ及びサービスに関する施策を継続しており、コネクテッドデバイス及び関連サービスの売上高は2,502,269千円となっている。引き続き予防から治療までの顧客の目的にあわせたデバイス、アプリ及びサービスに関する新規の施策を実施し、コネクテッドデバイス及び関連サービスの売上拡大を図っていく。